

土木技術映像委員会の活動および土木図書館における選定映像の活用実態

(財)全国建設研修センター 正会員 ○榊山 清人

1. はじめに

土木技術映像委員会では、「土木技術者の啓発ならびに土木技術の普及を効果的に行うため、土木技術に関する映像について研究し、それを効果的に活用することにより、土木技術の継承および共有化を推進すること」(委員会規則第1条)を目的として活動している。

その、一環として「イブニングシアター」と銘打って映画会を開催している。また、最近では映像発掘調査により土木図書館に眠っていた5本を発掘し、そのうちの1本の「勝鬃橋」は戦前の1940(昭和15)年頃の作品で、現在では見られない橋の開閉が行われている貴重映像であり、東京都への複製贈呈式ではNHKをはじめとするテレビ関係や新聞各社に取り上げられたほどである(写真-1)。さらに、3月末には土木学会映画コンクール受賞作品特集がタモリ倶楽部に取り上げられ、本委員会委員長が出演するなど一般の人々に知られる機会も増えてきている(写真-2,3)。

利活用については以下のとおりを想定している。

映像の収集(選定審査・コンクール応募への呼びかけ)→評価(選定審査・コンクール)→登録(DB登録)→管理(土木図書館映像ライブラリーへの収録と管理)→活用(イブニングシアター等上映会での土木への理解・PR活動や技術学習入門編の役割、図書館貸出を通じた企業研修、授業での利用)

本論文では、あまり調査されてこなかった実際の利活用とその課題等について述べる。

2. 土木図書館映像ライブラリーの貸出利用調査

土木図書館では、一般の人々にも選定映像や映画コンクール受賞作品などの登録映像の貸出を行っている。その際に、利用者には所属や利用目的などを記載してもらっている。2010年～2013年までの貸出本数は827本で、その目的は、社内教育・研修と授業で利用されているのが60%と過半数を超えている(図-1)。また、借りている映像は利用目的ごとに、まちまちであるが、顕著な例では、「ダムマニア展」の上映には「頻発する渇水・急務のダム建設」や「ダムのはなし-多目的ダムってなんだろう-」などダムに関する映像を総計20本弱、江戸川区議会議員鑑賞用を利用目的として貸出した映像タイトルは、「江戸川シリーズ-第1集-、-第2集-」など地域に密着している映像であった。



写真-1 映像委員会により発掘され東京都に複製が寄贈された「勝鬃橋」(土木学会土木文化映画委員会製作)映像のワンカット



写真-2 タモリ倶楽部「土木学会映画コンクール受賞作品特集-東京ファンタスティック土木映画祭-」に出演中の大野春雄委員長



写真-3 同番組でコメントをつける大野委員長

キーワード 土木技術映像, 土木図書館映像ライブラリー, 映像利活用

連絡先 〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2 (財)全国建設研修センター TEL 042-300-6866

表-1 映像の利用目的

利用目的	件数 (本)
社内教育・研修	302
授業	190
上映会	81
研究調査	71
自己啓発	53
土木技術紹介・広報	37
番組・広報誌等作成参考資料	42
その他	51
合 計	827

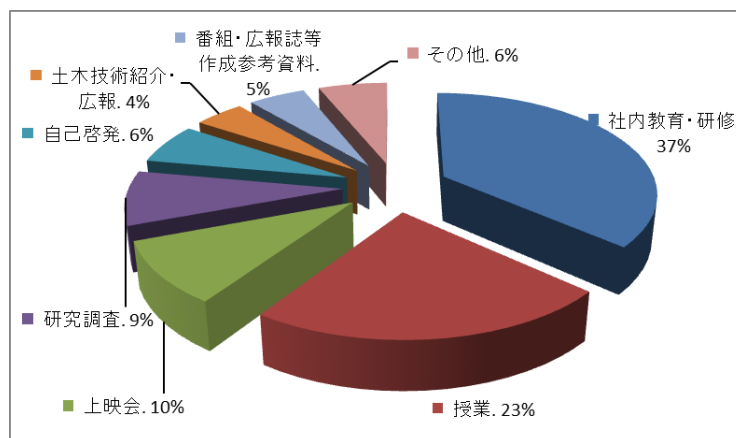


図-1 土木技術映像の利用目的 (パーセント)

3. 授業における活用と映像時間の問題点

土木技術映像の上映時間は、作品によって違いがあるが、中には 90 分にも及ぶ長時間の作品も存在する。また、作品全体の主題とは別に、映像の 1 シーンが大学や工業高校などの授業で使いたいような、役立つ作品も少なくない。

今回の調査で、特に興味深かったことは小学校が 3 校とも同じ作品を借りていたことである。その作品とは土木学会映画コンクール 2004 年最優秀賞受賞、「明日をつくった男-田辺朔朗と琵琶湖疏水-」(虫プロダクション(株), 2003 年制作)(図-2)、上映時間 86 分である。新学習指導要領の第 4 学年と 5 学年の社会科に「地域の発展に尽くした人々」の項目がありそれに相応しいということで選んだものと推察される(3 校とも関西圏)。確かに、実写とアニメを取り入れた名作であると思うが、小学校の授業時間は 45 分であり、1 時間に全てを上映することは不可能であり、また、長時間の上映は子供たちの集中力も継続しないと考えられる。この調査からはどのような授業が行われたのかは不明であるが、授業の中で、映像を使う時間をどのように構成するかは、シーンの抽出と関連して重要な課題であり、ヒアリングを実施するなどさらに調査を進めたいと考える。

なお虫プロダクション(株)は、この他にも台湾に尽力した土木技術者の八田與一をアニメ化した「パッテンライ!!-南の島の水ものがたり-」(図-3)も 2009 年に制作しており、上記同様にこの調査でも大学や各研修に活用されているが、この作品も 90 分に及ぶものであり、同様の課題を抱えている。

4. 今後の課題

土木技術映像は、今回の調査で社内教育・研修、授業、上映会、研究調査、自己啓発など様々な形で活用されていることがわかった。しかし、特に教育分野では授業時間に制約があり、必要な分野のみの映像シーンが必要とされる場合が存在する。今後もっと、映像をより多くの人たちに活用をしてもらうためには 1 作品ごとにじっくり鑑賞し、シーン毎に時間を図り、何の授業、何の研修に役立つかを明確に分析し、広報活動を行っていくことも重要な課題と思われる。



図-2 「明日をつくった男」ポスター



図-3 「パッテンライ!!」ポスター